

通常の学級における包摂力のある好事例

【キーワード】	書くこと、心情理解、登校しぶり、医療機関へのつながり
【学校、学年】	小学校 【4】年
【状況、様子等】	<p>○児童Eの様子等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習に向かいにくい様子があり、特に漢字を書くことが苦手。 ・視写することの苦手さや字形が整わない、枠の中に納まるように書くことが難しいなどの様子があった。 ・登場人物の心情や行動の理由を推測することが難しい様子があった。 ・「できない」という経験が多くなった際、家庭において荒れることがあった。 ・保護者とは、本児が4年生になるまでに面談を重ね、医療機関の受診に関して促しをしてきたが、つながっていない。
【対応・工夫】 支援、 合理的配慮、 基礎的環境整備、学 級経営、 支援体制 等	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字に関しては、穴埋め式を取り入れ、書く量を減らし、一部を書き入れるだけにすることや、正しい方に○を付けるなどに取り組んだ。また、先に読む活動から取り組んで自信をつけ、その後に書く活動に取り組むようにした。(手立て) ・文字の形に注意が向くように、漢字パズル、漢字足し算、形を音声言語化する活動に取り組むようにした。(手立て) ・宿題に関しては、タブレットに入力して提出したり、声で録音したものを提出したりするなど、選択できるようにした。(手立て) ・心情理解に関しては、実際の経験や体験から物事を考え、想起できるようにした。(手立て) ・登校しぶりに関しては、理由を丁寧に聞き取り、どの時間の何になら参加できそうか、本児とやりとりするようにした。(合理的配慮) ・書くことに関しては、代替手段を活用して、タブレットで写真にとって確認したり、板書のコピーを渡したりするようにした。他にも、デジタルメモやノートテイク、デジカメの活用を行った。(合理的配慮) ・ノートやワークシートは、枠を用意する(点線をなくし、実線のみ枠にするなど)ことや、考える時間とまとめる時間を分けて、書く時間を十分に確保するなどした。(合理的配慮) ・医療機関の受診に関しては、保護者、担任、特別支援教育コーディネーター、巡回相談員とて面談を行った。(支援体制)
【結果、変容等】	<ul style="list-style-type: none"> ・書くことに関しては、タブレットを活用等したことで、書くことへの精神的な負担が減り、100文字程度入力して文章を表現できるようになるなどの成長が見られた。 ・形を音声言語化する活動などに取り組んだことで、文字の形に注意を向けるようになり、意欲的に取り組めるようになってきた。 ・心情理解に関しては、身近なエピソードに置き換える(自分や家族、好きなキャラクターなど)ことで、理解ができるようになってきた。 ・登校しぶりに関しては、見通しが持てるよう、登校カレンダーを作成して取り組んだことで改善が見られた。 ・面談では、将来の自立の仕方や、合理的配慮は自分から求めるものであること、また、発達検査の目的や意義等について説明をしたことで、保護者が納得され、医療機関の受診につながった。